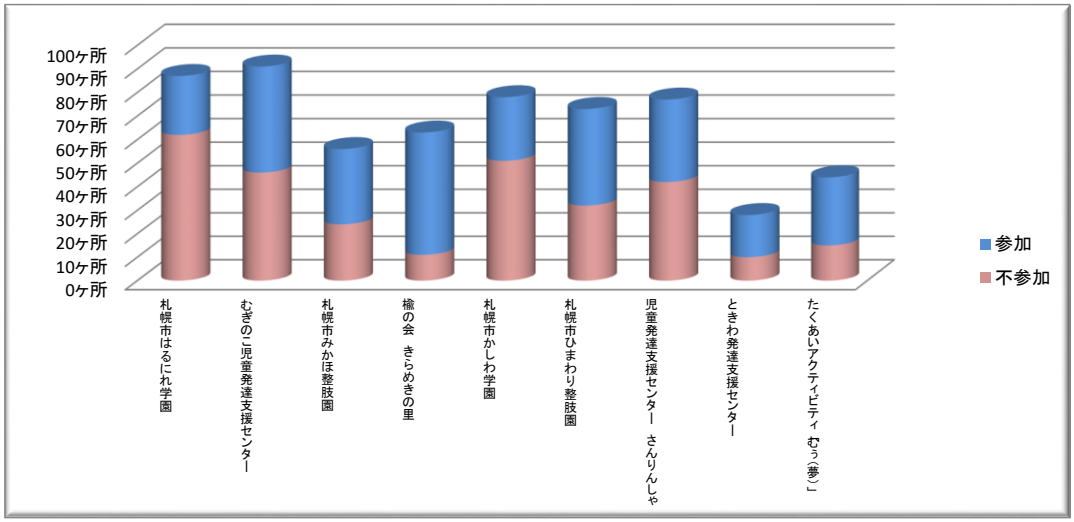
令和元年度　第２回児童発達支援研修会　集計結果

《障害児通所支援事業所数及び参加者内訳》

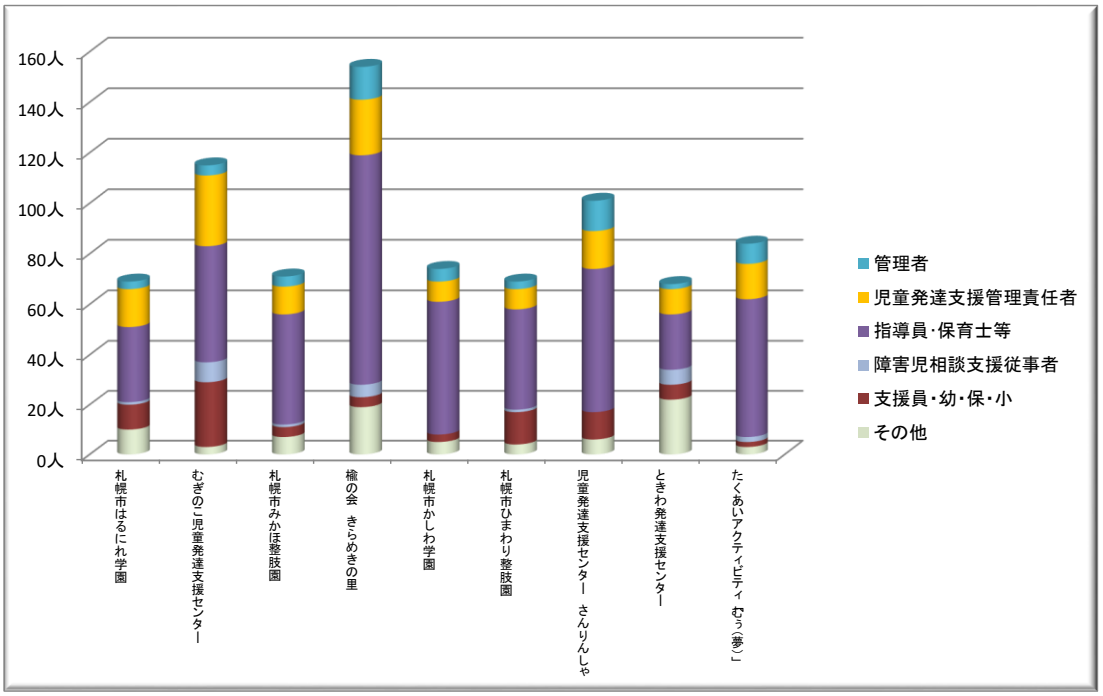
	対象事業所数	参加事業所数	参加割合	【参考】参加保育所数
札幌市はるにれ学園	87ヶ所	25ヶ所	28.7%	7ヶ所
むぎのこ児童発達支援センター	91ヶ所	45ヶ所	49.5%	10ヶ所
札幌市みかほ整肢園	56ヶ所	32ヶ所	57.1%	3ヶ所
楡の会　きらめきの里	63ヶ所	52ヶ所	82.5%	2ヶ所
札幌市かしわ学園	78ヶ所	27ヶ所	34.6%	3ヶ所
札幌市ひまわり整肢園	73ヶ所	41ヶ所	56.2%	8ヶ所
児童発達支援センター　さんりんしゃ	77ヶ所	35ヶ所	45.5%	9ヶ所
ときわ発達支援センター	28ヶ所	18ヶ所	64.3%	5ヶ所
たくあいアクティビティ「むぅ（夢）」	44ヶ所	29ヶ所	65.9%	2ヶ所
計	597ヶ所	304ヶ所	50.9%	49ヶ所

管理者	児童発達支援管理責任者	指導員･保育士等	障害児相談支援従事者	その他	保育所保育士、幼・小教諭	参加者計
3人	15人	30人	1人	10人	10人	69人
4人	28人	46人	8人	3人	26人	115人
4人	11人	44人	1人	7人	4人	71人
13人	22人	91人	5人	19人	4人	154人
5人	8人	53人	0人	5人	3人	74人
3人	8人	40人	1人	4人	13人	69人
12人	15人	57人	0人	6人	11人	101人
2人	10人	22人	6人	22人	6人	68人
8人	14人	55人	2人	3人	2人	84人
54人	131人	438人	24人	79人	79人	726人
7.4%	18.0%	60.3%	3.3%	10.9%	10.9%	

≪参加事業所数≫



≪参加者数≫



１　グループワークで挙げられた事例・議題

⑴　Aテーマ（両親への支援～保護者間で考えが異なるケース～）

〇両親、どちらか片方の親、祖父母等が障害受容をできていない場合について

〇子どもの進路（普通学級か支援学級か）において両親で意見が異なる場合について

〇父親が子どもの療育に対して積極的でなく、母親としか関わることができない場合について

⑵　Bテーマ（保護者とのコミュニケーション～情報交換が難しい保護者との関係づくりについて～）

〇仕事等により電話がつながりにくい場合について

〇保護者に知的や精神的な障がいがあり、コミュニケーションが取りにくい場合について

〇保護者の療育意欲が低い場合について

〇事業所で行っている行事（茶話会、親子遠足、参観日等）について

⑶　Cテーマ（地域につなげる～社会から孤立している家族について～）

〇子どもが不登校の場合について

〇他機関（学校や保健センター、他事業所等）との連携について

〇保護者との関係作りについて

⑷　Dテーマ（虐待の疑い～これはネグレクト？心配な家族へのアプローチ～）

〇虐待かどうか判断に迷う場合について

〇子どもの衛生管理がされていない場合について

〇保護者自身が虐待していることに気づいていない場合について

〇児童相談所へ通報したことが保護者に知られ、関係が悪化した場合について

２　参加者の感想・意見

〇各事業所の事例や色々な機関で働いている方の話を聞けて良かった。保護者支援に役立てていきたい。

〇同職種間でつながりを作るいい機会となった。

〇自分と同じ悩みを持ちながらも努力している方がいることを知り励みになった。

〇同じ悩みを抱えている事業所が他にもあり、どのように対応しているかを知ることができた。

〇グループワークのまとめとして、オブザーバーからの家族支援についての話が参考になった。

〇ファシリテーターによる情報提供があり、グループワークのイメージが持ちやすかった。

〇保護者や学校、事業所など複数の機関で連携していく必要性を改めて実感した。

〇保育園からの参加であったが、幼児期では発達の遅れが個性なのか障がいなのかの判断が難しいことも多く、話の全てがこれからの支援の参考になった。

〇子ども視点での療育の見直しができた。

〇事業所によってアプローチの仕方が異なるため、自分には思いつかない支援方法を知ることができた。

〇家族支援に努め、子供の心の安定を目指したいと強く意識した。

〇事例の共有も参考になったが、明日から使える成功例を具体的に聞きたかった。

〇テーマが深すぎてなかなか話が煮詰まらなかった。

〇日々の療育内容について具体的に情報交換がしたい。